

研究の実際 2

(グループ別研究の内容)

言語・コミュニケーション面への指導・支援班

1 はじめに

言語・コミュニケーション班は、小学部5名、中学部4名、高等部10名の教師で構成されている。第1回目のグループ研修では、外部の専門家に授業を見ていただく事例について児童生徒の実態を出し合い、気になるところについて話し合った。個別に課題を出して、グループ全体で情報を共有した。

小学部の事例では、

- ・「二者選択の返答が曖昧だ。」
- ・「意思の伝え方が弱い。」
- ・「『伝えたい』と思う気持ちをどのように育てるか。」

中学部の事例では、

- ・「大きな声で発声するが言葉は出ない。」
- ・「ジェスチャーやカードで要求を伝えようとする姿が見られるが、思い通りにならないと周りに対して攻撃的になったり、座り込んだりする。」
- ・「流れで動けるときの言葉で理解しているか、周りの状況で動いているか不明なことがある。」

高等部の事例では、

- ・「いろいろな人とコミュニケーションを図ろうとするが、発音が不明瞭なため、関わりの少ない者には聞き取りにくい。」
- ・「場に応じた適切なコミュニケーションを取るのが難しい。自己中心的な言動が多い。」等の課題が挙げられた。

各部の事例の中から、授業研修を通して検討する小学部と中学部の2事例を決定した。普段の授業の中でできる授業改善について学ぶ機会としたいと考えて、言語聴覚士の方にアドバイスをしていただくこととして授業研修会を行った。

2 授業研修会 1

(1) 小学部5年男子児童Aについて

ア 実態表

項目	実態	年間目標
コミュニケーション	言葉での指示を理解し行動に移す。発語はない。発声の模倣を嫌がる。挨拶や呼び掛けのとき、相手の顔を見ない。絵や写真カード、文字カードを使って、好きな場所や物を選ぶ。限られた場面（牛乳パックをもらうときなど）では、自ら関わっていくが、その他の場面では、自ら要求を伝えようと、強く教師に訴えてくることは少ない。自転車と一緒に乗ってほしいとき、お茶が欲しいときに、教師に向けて「お願い。」や「下さい。」のサインをするようになった。一場面一場面呼び掛ける場面は増えてはいるが、その行動がなかなか般化するの難しい。	○相手の顔を見て、挨拶や返事をする。 ○要求するときに、積極的に自ら呼び掛けに行く。 ○文字で欲しい物やしたいことを表出する。 ○声を出したり模倣をしたりして、主張する手段を増やす。

イ 学習指導案

日常生活指導 学習指導案

日時	9月26日(金) 6校時	部 科	小学部	学年・組	第5学年月・星組 (児童数3名)
単元 (題材)	終わりの会			場所	5年月組教室
授業者	井上美苗 星野礼子				
指導計画	1 連絡帳を書く(貼る)。 2 帰りの支度をする。 3 終わりの会		本時 主題	今日を振り返り、明日のことを知る。	
			本時 目標	○今日楽しかったことを思い出す ○翌日の時間割を知る(書く・貼る)	
観・単元 指 観 導 児 観 童 等	終わりの会は、毎日行われている活動であり、一日を振り返り、翌日に期待を持つための大切な活動である。児童たちは、毎日の繰り返しの中で連絡帳を書いたり、帰りの支度をしたりすることの流れを覚えており、自発的な行動も見られる。友達との関わりが多く持てる時間でもあり、コミュニケーションの広がりを期待したい。また、自分の気持ちや困っていることを伝える方法を身に付けていきたい。				
対象 児童	自立活動「コミュニケーション」に関する本時のねらい				
A	言葉を発することは難しく、発声も嫌そうであるが、声を出すことも意思を伝える手段として活用する。手話を含めたジェスチャーやカードを活用して、終わりの会の司会を行う。行動の始まりに何らかのきっかけが必要であり、言葉掛けを待っている様子も見られるが、A児用のカードを見ながら自発的に行動する。				
学習活動	時間 (分)	児童Aに対する教師の支援と手立て・評価の視点			
1 連絡帳を書く。	10	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードを活用して連絡帳が書けているかチェックし、間違っているときは見るべきところを教える。書けずに困っているときは、教師への言葉掛けを促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">分からないことがあるときに教師に告げにきたか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">連絡帳を書き終わったことを教師に報告にきたか。</div>			
2 帰りの支度をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> 他の児童に気を取られているときは言葉を掛け、活動を促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自発的な行動であったか。</div>			
3 終わりの会をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> 友達を見ずに号令や司会を行っているときには、注目を促す。友達へのカードやボードの見せ方がうまくできないときには、教師と一緒にいき、やり方を伝えることで、安心して係活動に取り組めるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達を意識して、発声やジェスチャーで司会をしたか。</div>			

ウ 授業に対するアドバイス

指示されたことがどのくらい理解できているか把握して指導することが大切。音声だけで分かる言葉がどれだけあるか、平仮名の単語がどれだけ分かっているかを調べて、指示言語を理解して行動することで、自発性を高めると良い。

エ アドバイスを参考にした第1回研修後の取組（指導・支援の方針等）

具体的に、どの言葉が分かっているかを調べるとなると時間が掛かるし、個別授業はないので時間を取ることができない。生活の中で、「これは分かっている。」と気付いたことに敢えて取り組むことで、繰り返しながら理解を深めた。

人に話し掛けているのだと意識するために、スケジュールボードのカードを大きくして持ちやすくした。さらに、文字と写真が同時に見えるようにしたことで、他の児童にも分かりやすくなり、何の時間か言えるようになった。また、「楽しかったこと」の発表の仕方を3人の実態に合わせて変えた。言葉のある児童の発表を聞いて何と言ったか指すことで、聞こうとする態度を養うようにした。



終わりの会の様子

(2) 中学部2年女子生徒Bについて

ア 実態表

生徒の実態	脊椎側弯症（傾斜16度）のため、変形の予防など昨年度から行っている。「気を付け」をしても右に傾き、歩き方も左右に揺れるように歩く。 情緒面では、自分の思いがかなわないと大きな声を発して抵抗し、攻撃的になる。教師だけでなく周りの人に対して手が出ることや座り込み、動かなくなることがある。全体の時間やペースに乗りにくいことがやや多い。好きな友達に対して、近くに行ったり、手をつないだりすることが見られている。反面、危険な行為をする友達に対して警戒心がなく、そばによることもあるので配慮を必要とする。	
項目	指導目標	指導内容・支援の手立て
コミュニケーション	○学級の集団だけでなく学年や学部の中で活動する。	・集団の中で、できることを体験しながら、友達と関わる場面を設ける。

イ 学習指導案

生活単元学習 学習指導案

日 時	9月26日（金）5校時	部 科	中学部	学年・組	第2学年D組 （生徒数3名）
単元 （題材）	季節（秋）の表現をしよう			場所	2D教室
授 業 者	大田 美香代、山口 恵里				
指 導 計 画	1 季節について知り、秋の色で描画する。・・・1時間（本時）	本時 主題	絵の具や道具等を使って、季節の表現をする。		
	2 粘土を使って季節の物を制作する。・・・2時間 3 秋祭りを体験する。・・・2時間	本時 目標	○季節を楽しみながら制作する。 ○手先を使って楽しく制作する。		
観 単 ・元 指 観 導 生 観 徒 等	制作活動は、1学期から行っている活動である。生活単元学習は、季節や行事に沿った活動をすることで生活する意欲や態度を育てることを目標としている。身近な歌や物を使って親しみを持って制作につなげたい。制作活動を行うことで、手先の巧緻性を高め、様々な素材や道具に慣れることも目標としている。導入の授業なので、楽しく制作活動を行いたい。				
対 象 生 徒	自立活動「コミュニケーション」に関する本時のねらい				
B	言葉を発することはしないが、声を出すことで自分の感情を表現する。欲しい物に対して、手をたたいて表現する。机上課題に継続的に取り組むが、体力がなく持続する力は弱い。他者や事物に対する注目が弱く、興味のないことだと取り組もうとしないことがやや見られる。音楽を聞くことや自分の思いで描画することは好きであるが、継続して取り組めるか、友達の作品や取組に関心もてるかどうか難しいところである。				
学 習 活 動	時間 (分)	生徒Bに対する教師の支援と手立て・評価の視点			
1 挨拶をする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のコミュニケーション用アプリを使用して（以下タブレット端末）、号令を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">タブレット端末で号令を掛け、行動したか。</div>			
2 季節の話聞く。 ・季節の歌を歌う。 ・季節の物を提示する。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の歌を歌ったり、季節の物を提示したりして興味を引く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習意欲を高めたか。</div>			
3 制作をする。 ・季節の色を作る。 ・伸び伸びと描画する。	20	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢を示して、好きな色を選ぶようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">絵の具で混色し、ダイナミックに描画したか。</div>			
4 鑑賞する。 ・友達の作品を見る。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を見やすいように提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達の作品を見ることができたか。</div>			
5 挨拶をする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使用して、号令を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">タブレット端末で号令を掛け、行動したか。</div>			

ウ 授業に対するアドバイス

活動の様子から人や物への注目ができ、周りの様子もよく見ている。自分の思いが強いのは仕方がない。

因果関係を教えることが大切である。例えば、自分がしたことが（スイッチやボタンを押した結果）どういう効果をもたらすのかとすることを学習していくことである。「見る」ことが学習につながると良い。

エ アドバイスを参考にした取組

朝の会、終わりの会等の挨拶時にタブレット端末を使って挨拶の号令を掛ける。

3 授業研修会 2

(1) 小学部 5年男子児童 A について

ア 学習指導案

生活単元学習 学習指導案

日 時	11月26日（水）6校時	部 科	小学部	学年・組	第5学年月・星組
単元（題材）	終わりの会			場所	5年月組教室
授業者	井上美苗 星野礼子				
指導計画	1 連絡帳を書く（貼る）。 2 帰りの支度をする。 3 終わりの会をする。		本時 主題	今日を振り返り、明日のことを知る。	
			本時 目標	○翌日の時間割を知る（書く・貼る）。 ○終わりの会の司会をする。	
観・単元観・指導・観・児童等	終わりの会は、毎日行われている活動であり、一日を振り返り、翌日に期待を持つための大切な活動である。連絡帳を書いたり、帰りの支度をしたりすることは、毎日の繰り返しの中で流れを覚えており、自発的な行動も見られる。友達との関わりが多く持てる時間でもあり、コミュニケーションの広がり期待したい。また、自分の気持ちや困っていることを伝える方法を身に付けていきたい。				
対象児童	本 時 の ね ら い				
A	言葉を発することは難しく、発声も嫌そうであるが、声を出すことも意思を伝える手段として活用する。手話を含めたジェスチャーやカードを活用して、終わりの会の司会を行う。 友達の顔を見ること、話を聞くことに留意し、関わりを増やす。				
学習活動	時間（分）	児童 A に対する教師の支援と手立て・評価の視点			
1 連絡帳を書く。	10	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳が正確に書けているかチェックし、間違っているときは見るべきところを教える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">連絡帳を書き終わったことを教師に告げにきたか。</div>			
2 帰りの支度をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> 他の児童に気を取られているときは声を掛け、活動を促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">集中して帰り支度をしたか。</div>			

3 終わりの会をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を見ずに号令や司会進行を行ったときは、友達を意識した行動の取り方を具体的に見せて模倣するよう促す。 ・楽しかったことの伝え方を3人の実態に合わせて変える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 友達を意識した発声やジェスチャーで司会ができたか。 </div>
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えやすいように、カードを大きくし、文字と写真を一体化した。 ・「楽しかったこと」で友達と関わる機会を増やした。 	

イ 授業に対するアドバイス

音声で理解できること、音声では理解できないこと、ジェスチャーで理解不可能なことを、今後ゆっくり把握すると良い。教師を見て指示を待っていることが多かった。何かきっかけがないと動かないのであろうが、可能な範囲で言葉掛けを減らし、待ってみることを試してはどうか。コミュニケーションボードやメッセージエイド、ボカ、ボイスメモ等を活用してはどうか。

ウ 今後の取組について

声を出すことは、口の回りの筋肉運動にもなるし、記憶にも役立つ。発音に至らなくても発声は促していきたい。手話に近いジェスチャーも増えてきており、他の児童に伝わるようなら活用したい。文字学習も少しずつ定着しているので、意思表示につながるよう指導を続けたい。来年度6年生になり、小学部のリーダーとなることも予想されるので、全員に伝わる手段としてICT機器の活用を考えていきたい。

エ 成果と課題

「人に関わるときに肩をトントンとたたいて顔を見る」という、一見簡単に思えることが、本当に難しい児童である。こだわりが強いため、コミュニケーション手段においても一方法に決めてしまうと他の方法を受け付けられないことが予測される。将来的に作業なり就労なりも考えられる児童なので、人の話を正しく理解して行動したり、自分の意思を何らかの方法で伝えたりすることは、ぜひ身に付けておきたい。今回の研修を経て、様々なコミュニケーション手段に取り組み、A児が受け入れる方法が増えた。さらにICT機器を加えることで、コミュニケーションの世界を広げたい。また、担任だけがA児の理解度を「なんとなく」把握しているのではなく、次年度の担任に引き継げるよう、把握したことをまとめておきたい。



終わりの会の様子



視覚的支援の教材

(2) 中学部2年女子生徒Bについて

ア 学習指導案

生活単元学習 学習指導案

日時	11月26日(水) 6校時	部科	中学部	学年・組	第2学年D組
単元(題材)	終わりの会			場所	2D教室
授業者	大田 美香代、山口 恵里				
指導計画	1 着替え 2 帰りの支度 3 終わりの会 4 挨拶 (年間を通じて指導)	本時 主題	今日を振り返り、頑張ったことを認める。		
		本時 目標	○一日の出来事を思い出す。 ○自分の頑張ったことを知る。 ○友達の頑張ったことを聞く。		
単元観・児童観	終わりの会は、毎日、短時間行われている活動である。生活習慣として自立的な活動が行われることを理想とするが、実際には下校時刻前の大変慌しい中で、ゆっくりと取り組めていないのが実状である。一日を振り返ること、その中で何を頑張ったかという情報交換を行い、生徒の新たな面を発見し褒める行為は、生徒の意欲につながるものであると期待する。生徒は言葉を発しないが、教師の言葉掛けや写真・カード等から理解することは、大人が考える以上に多いように思われる。				
対象生徒	自立活動「コミュニケーション」に関する本時のねらい				
B	学校生活全般において、自分の思いが優先することが多く見られる。前回の鈴木STのアドバイスもあり目を見て指示を出したり、要求を聞いたりするように心掛けている。日常生活指導場面では、着替えのときに他の生徒の支援をしていると、「自分を先にしてよ。」と言っているような注目を向ける大きな声を上げたり、教師や級友をたたいたりしてることが多い。「早く帰りたい。」という気持ちは分かるが、級友の存在を認めて待てる力が育ってほしい。終わりの会では、学校が終わり帰れるという見通しがある状況の中で、友達の話話を聞いたり、自分の順番を待ったりすることができるようになってほしい。				

○本時の展開

学習活動	時間(分)	生徒Bに対する教師の支援と手立て・評価の視点
1 挨拶をする。	2	生徒Bに対する教師の支援と手立て・評価の視点 ・ タブレット端末を使用して、号令を行う。 タブレット端末で号令を掛け、行動したか。
2 一日を振り返る。	5	・ 写真や言葉、動作や歌等で一日の流れを振り返る。 一日の流れを思い出せたか。
3 頑張ったことを発表する。	5	・ 一人ずつ頑張ったことを教師が言語化して褒める。 自分だけでなく、友達の話聞いたか。
4 お楽しみをする。 ・ ペープサート、手遊び、絵本等	5	・ 選択肢を示して、好きなお楽しみを選ぶようにする。 お楽しみを選ぶことができたか。

から選ぶ。		
5 挨拶をする。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット端末を使用して、号令を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> タブレット端末で号令を掛け、行動したか。 </div>

イ 授業に対するアドバイス

○聴覚障害があるので、タブレット端末の音声付スピーカーを使用して音量を上げると良い。

○生徒の机の配置をコの字型にして、友達の反応が視野に入るようにする。周りを見てから指示を出す。

ウ 今後の取組

挨拶の号令を掛けるとき、周りの友達の様子を言葉掛けをして伝える。アドバイスを受けて、更に深く知りたいと思った点がある。因果関係を知ることが、どうコミュニケーションを発達させるのかという点とコミュニケーションの発達の過程はどのようになっているのかという点である。研修会を継続していけるようにしたい。

また、発達障害を持つ生徒に対して、どう理解してコミュニケーション力を伸ばしていくべきか、根本のところまでは迫れなかったので、今後の課題としたい。



「終わりの会」で大型絵本を見ている様子



号令を掛けている様子



教師が生徒に号令を促している場面

(3) 高等部3年女子生徒Cについて

ア 学習指導案

生活単元学習 学習指導案

日時	11月26日(水) 5校時	部科	高等部	学年・組	第3学年A組 (生徒数6名)
単元 (題材)	文化祭を頑張ろう			場所	3A教室
授業者	山本美絵、宮尾徳晃				
計 指 導	1 文化祭の予定や役割について知る …1時間	本時 主題	文化祭の思い出をまとめよう。		
	2 文化祭に出品する作品を作ろう …5時間		本時 目標	○文化祭について振り返る。 ○文化祭の思い出をまとめる。	
	3 文化祭の思い出をまとめよう …2時間(本時その1)				
単元 指 導 観 ・ 生 徒 観 ・	文化祭に向けての気持ちを高めるため、この単元を設定した。本学級は、絵を描くということが苦手な生徒が多かったが、行事の絵やポスターなどで絵を描くことを増やしたところ、絵を描くということに対して抵抗がなくなってきた。 本時の主題である自分の経験したことを言葉にして伝えることについては、苦手な生徒が多い。長文は書けないが、短文でも経験したことや自分の気持ちを引き出せるようにしていきたい。				
対象 生徒	自立活動「コミュニケーション」に関する本時のねらい				
C	生徒Cは、気分のむらがあり、嫌なことやしたくないことがあると動けなくなってしまう傾向がある。しかし、文を書くことは好きで、よくノートに文字を書いたり、手紙を書いたりしている。言葉で気持ちを伝えにくい、本人が得意としている書くことを生かし、簡単な文を作り発表することにした。恥ずかしがり屋な所もあるが、少しでも声に出して発表することを期待したい。				

○本時の展開

学習活動	時間 (分)	生徒Cに対する教師の支援と手立て・評価の視点
1 本時の予定を説明し、文化祭の活動を振り返る。	10	・文化祭でどのような活動をしたか写真を見せて、振り返りの手掛かりとする。 文化祭の内容を思い出せたか。
2 プリントに文化祭でしたことや感想を書いたり、模造紙に写真等を貼ったりする。	15	・簡単な質問等をして、プリントを一つ一つ埋めていくよう促す。 思い出したことやしたことを書き出せたか。
3 思い出を発表する。	15	・発表しやすい雰囲気を作り、言葉掛けを行う。 人前で発表できたか。
4 本時のまとめを行い、次の時間の予定を伝える。	5	・発表に対する感想を言うときに、良かったところや頑張っていたところなど、具体的に伝える。 教師の方を見て話を聞いたか。

イ 授業に対するアドバイス

発音については、舌の長さの問題がある。発音の仕方は、固定化しているため、不明瞭であるが仕方がない。

生徒が「だまれ。」と言ったり、道具を置くとき故意に音を立てて置いたりしていた。そのことに対して人との関係で良くない言動や行動は、正しい言い方、パターンを教えると良い。例えば、道具を置くとき「そっと置きなさい。」ではなく、「このようにして置くよ。」と置き方の手本を見せる。また、授業中、自分から始めたことに対して途中でやめさせていたが、途中でやめさせてはいけない。一つ一つ最後までさせて、達成感を味わわせ、積み重ねることが大事である。

ウ アドバイスを参考にした第2回研修後の取組（指導・支援の方針等）

生徒がその場に応じた言葉遣いを正しく学ぶよう、不適切な言葉を発したときには、注意ではなく言い方を変えて「〇〇と言ってみよう。」と言うことにした。最初は、いつもと違うと生徒は感じていたようだが、適切な言葉を言うことはなかった。そこで、生徒が言いやすい適切な言葉はないか考え、言葉掛けを継続している。

エ 成果と課題

生徒は、テレビのドラマ等から影響を受けやすいため、不適切であっても使ってしまう、そのときの教師の反応をよく見ている。一度パターン化すると何度も使ってしまう。アドバイスを受けて、その後も継続して行っているが、不適切な言葉を発する度に適切な言葉を言うと少し笑うようになってきた。最近では、「だまれ。」と言う言葉を聞かない日もある。

また、アドバイスを受けて、私自身、普段の言葉遣いも改めようという意識が芽生えた。正しい言葉を伝えようとすることは、教師にとっても、気付きの一つとなり細やかな支援につながる。

生徒は、3月に卒業し、社会に出て行く。それまでに不適切な言葉から場に応じた適切な言葉へと変えることには、限界がある。しかし、今後も根気強く続けていきたいと思っている。

4 成果と課題（まとめ）

今回の事例による授業研修を通して、担任をしている児童生徒の課題と感じていることに対して外部の専門家から助言を受け、さらに校内のグループ内で話し合い、情報を共有するといった研修ができたことは成果といえる。

課題としては、更に詳しく専門家の立場から教えていただきたいことを整理し、十分に聞ける時間設定を行うことや授業研修を考えた場合には、授業者に偏りのないよう、全体を見て学部間の調整をしたり、早い段階で計画的に授業研修が組めるように見通しを持った研修計画の立案をしていくことが必要である。

また、外部の専門家の方にモデル授業を行っていただき、直接、児童生徒へ関わる指導・支援の様子を見せていただくような取組も考えていきたい。

体のバランス、姿勢や運動面への指導・支援班

1 はじめに

体のバランス、姿勢や運動班は、小学部6名、中学部6名、高等部6名の教師で構成されている。児童生徒の実態は様々であり、身体の動きについて自立活動の時間における指導をしている者もいる。第1回目のグループ研修では、担当している児童生徒それぞれの実態を出し合い、気になるところについて話し合った。共通する課題としては、椅子に座ったときの「姿勢」が悪く、腰が後傾して背中が丸くなってしまおうということであった。日常生活に必要な基本動作を身に付けるためには、姿勢（座位、立位）を保持しながら、移動、上肢を十分に動かすことができることが基礎となる。そこで「姿勢の保持」を中心に、普段の授業の中でどのように指導支援していけばよいのかを全体で考えることとした。

また、手先は器用だが、目と手の対応動作が難しかったり、手首・足首が固いためスムーズな運動が難しかったりする児童生徒についてどのようにアプローチしていけば良いのかについても研修したいと考えた。普段の授業の中でできる授業改善について学ぶ機会としたいと考えて、理学療法士ではなく作業療法士の方にアドバイスをさせていただくこととして2回の授業研修会を行った。1回目は、生活単元学習（小学部）と音楽（中学部）、2回目の授業は、自立活動の時間における指導（小学部）と日常生活の指導（中学部）の授業を基に研修を行った。

2 授業研修会1

(1) 小学部6年男子児童Dについて

ア 実態表

項目	実態	年間目標
身体の動き ・移動 ・手指の操作 ・協応動作 ・その他	じっと立ち止まるのが難しく、小走りで辺りを動き回ることが多いため、活動に集中しにくい。模倣運動は難しい。体が硬く、柔軟性に乏しい。 手先を唇に触れ、唾液を出すことが多い。 左利きである。握力が弱く、クレヨンや鉛筆でらせん状の線を描く。はさみは、持つところを支援すると、1回切りをする。	・全身を動かし、柔軟性を高め、様々な運動を経験する。 ・はさみと紙を自分で持って、一回切りをする。

イ 学習指導案

国語・算数科 学習指導案

日時	9月29日（月）5校時	部科	小学部	学年・組	第6学年月・星組 児童数7名
単元（題材）	宿泊学習に行こう			場所	6年月組教室
授業者	新口奈苗 水田 勲 竹中智穂				
計 指 導 画	1 宿泊学習について知ろう・・・1時間	本時 主題	カレーライスを作ろう		
	2 しおりを作ろう・・・1時間	本時	○カレーライス作りの動きの模		
	3 カレーライスを作ろう・・・1時間				

	(本時)	目標	倣に意欲的に取り組む。
観・単 指・元 導・観 観・児 等童	<p>本学級の児童は宿泊学習に向けて事前学習を積み重ねてきている。しおり作りで日程を把握し、どのような活動をするのかを理解した。期日が近づき、ますます期待感が膨らんだ状態である。カレーライスのはさみ作りは材料や手順を歌で覚えており、意欲的に取り組める題材だと考える。材料の絵と名前のマッチング、声に出して言う、線に沿って切る等の活動において、自発的な動きを引き出せるよう支援を工夫したい。</p>		
対象 児童	自立活動「身体の動き」に関する本時のねらい		
D	<p>教師の言葉掛けで両足を床に付けて座る。 号令や言葉掛けを聞いて、自発的に動く。 指し示された場所に絵カードを貼ったり、切る部分を見てはさみで切ったりする。</p>		

○本時の展開

学習活動	時間 (分)	児童Dに対する教師の支援と手立て・評価の視点
1 挨拶をする。 カレーライスのはさみ作りを復習することを知る。	5	<ul style="list-style-type: none"> 良い姿勢の見本を示すとともに、かかとを床に付けることを援助したり、言葉掛けをしたりする。 本時の学習活動の内容を知らせ、見通しを持たせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">かかとをつけて立ち、静止して挨拶したか。</div>
2 「カレーライスのはさみ作り」の歌を歌い、材料と平仮名のマッチングをする。	20	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードに材料の絵と名前を順次掲示する。掲示物を活用して、平仮名のマッチングや個数を数える学習を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自発的な言葉や身振りがあったか。</div>
3 はさみで材料の絵を切り、歌に合わせてカレーライスのはさみ作りの動きを模倣する。	15	<ul style="list-style-type: none"> 材料の絵に太い線を引き、線に沿って切るときの目安をはっきりさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">切る材料を選び、手元を見て切ろうとしたか。</div>
4 「宿泊学習に行こう」の歌を歌う。終わりの挨拶をする。	5	<ul style="list-style-type: none"> 歌を通して宿泊学習の楽しい雰囲気を感じるようにする。 良い姿勢で、声を出して挨拶をするよう促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">姿勢を意識して、静止して挨拶したか。</div>



立位



座位



はさみで切る様子



袋の中の物を渡す

ウ 授業に対するアドバイス

- ・机や椅子の高さは、調整して足が付くように椅子を低くする。活動しやすいように机も低くすると良い。椅子に滑り止めを着け、背もたれの部分に硬い物を当てると良い。
- ・はさみを使うときの具体的な支援は、介助を後ろからすると良い。一緒に切ることや紙の厚さを厚くするなどして切りやすい物にする。肘を付けると切りやすい。いろいろなはさみがあるので使いやすいものを使用する。切り取り線は、見やすいように太くしたり、裏面にも絵が描かれていたりすると良い。
- ・のりで貼るとき、目印を付けて貼ると良い。目印を大きくしたり、一度注目させたりして貼ると良い。
- ・教師とマンツーマンでの授業ではないので、友達との関わりを活用しながら集中する時間を設定すると良い。座るだけでなく立つ時間を作ると集中力が上がるかもしれない。集中する時間をまず5分、10分と目標を段階づける。
- ・良い姿勢を保つために緊張を続けることが難しいので、まずは正しい姿勢が取れることが大切である。緊張する場面と緩める場面とを作り、めりはりを付けると良い。
- ・ランニングの際、なかなか自分から走ることが少ない児童の支援について、手を引っ張って走っても良いかとの質問に対し、好きな物を目標にしたり、好きな友達に前を走ってもらったりすると良いという回答であった。

エ アドバイスを参考にした第1回研修会後の取組

- ・椅子の高さを調整した。
- ・良い姿勢が取れるよう、直接支援したり言葉を掛けたりする。
- ・みんなと一緒に行動するよう、友達を意識するような言葉掛けをする。
- ・主体的に動くよう、興味関心が持てる教材の工夫をした。

(2) 中学部1年女子生徒Eについて

ア 実態表

(生徒の実態) 身辺自立はしている。慣れた場所では、みんなの前で発表したり、自分の意見を言ったりすることができる。約束やマナーを守り、集団の中で活動する。集団行動や身体を動かす際に、教師の指示に対して前後左右が逆になってしまうことがある。不安定な姿勢を作るのが怖く、立位で前後左右に開脚したり、お尻を浮かせて座る姿勢を作ったりできない。言葉掛けをしたり、身体に触れて支援をしたりすると、身体が硬くなり動きが非常にぎこちなくなる。左右が逆になることはあるが、ダンスや体操の動きを模倣することができる。

区分	指導目標	指導内容・支援の手だて
身体 の 動 き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること ・大きく体を動かして、体操を行う。	・単純な動きから大きく意識して体を動かせるようにする。 ・一つずつの動きを確認し、腕を伸ばす、上まで上げるといった具体的な目標を設定する。

イ 学習指導案

音楽科 学習指導案

日時	9月29日(月) 6校時	部科	中学部	学年・組	第1学年全 生徒数9名
単元 (題材)	伸び伸びと表現しよう			場所	小中音楽教室
授業者	山上千津 深井千代 渡部啓子 中村優哉 坂本和成				
指導計画	1 伸び伸びと表現しよう ○リトミック ○身体表現・歌唱「手と手と手と」 ○歌唱「季節の歌」など ○身体表現「わらべ歌」など ○身体表現・歌唱「花は咲く」など 2 学期間を通して随時曲や内容、順番等を変更しながら実施する。	本時 主題	大きな声で歌ったり、大きく手を動かして表現したりしよう。		
		本時 目標	○声の出し方を工夫しながら朗々と歌う。 ○リズムカルに手遊び歌を楽しむ。		
単元観・生徒観等	本単元「伸び伸びと表現しよう」では、様々な方法で自分を表現することを目指している。生徒Eは、音楽が好きであり、楽しく参加しているが、リトミックや身体表現等では、上手に体を動かして模倣することが難しい。しかし、手話は得意で動きをすぐに覚え、丁寧に表現している。歌唱は、音程は不安定なもの、自分なりに声の出し方を工夫しながら歌を歌っている。本時は、生徒Eが身体表現や歌唱などで、自信を持って表現できるように、雰囲気作りを心掛け、楽しく活動できるようにしたいと考えている。				
対象生徒	生徒Eに対する自立活動「身体の動き」に関する本時のねらい				
E	リトミックで、曲想に合わせた表現をする。 友達と両手を合わせて「あんたがたどこさ」の手合わせを楽しむ。				

○本時の展開

学習活動	時間 (分)	生徒Eに対する教師の支援と手立て・評価の視点
1 リトミックをする。 ・リトミック ・体操	10	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子を見ながら曲を変え、いろいろな動きを取り入れられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">音楽を聴いて、曲想に合わせて動きを行ったか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 体操を取り入れ、体がリラックスできるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">体を大きく動かしたか。</div>
2 「手と手と手と」を歌う	5	<ul style="list-style-type: none"> 自信を持って大きな声で歌えるよう、目の前で歌い掛けたりハンドプレイをしたりする。 友達の前で発表するように促す。できたときにはしっかり賞賛し、自信が持てるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大きな声で歌を歌ったか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大きく手を動かして表現したか。</div>
3 「赤とんぼ」を歌う	5	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢になるよう、起立をし、体を順番に整えていく。適宜言葉掛けをしながら、リラックスできるよう手本を示したり一緒に体を動かしたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">正しい姿勢で朗々と歌えたか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">声の出し方を工夫しながら歌を歌ったか。</div>

4 「あんたがたどこさ」の手遊び歌をする	10	<ul style="list-style-type: none"> ・練習する時間を設け、一緒に活動したり言葉掛けをしたりする。 ・楽しい雰囲気を作り、意欲的に活動できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">友達と一緒に楽しく手遊び歌をしたか。 リズムカルに手合わせをしたか。</div>
5 「花は咲く」の手話をする	10	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に復習を行い、自信を持って取り組めるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">大きく手を動かして伸び伸びと表現したか。</div>
6 後片付けをし、挨拶をする	5	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を伝え、安全に行動するよう見守る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">指示を聞き、自主的に行動したか。</div>



つま先歩きがかかと歩きになった状態



「手と手と手と」



「あんたがたどこさ」の手合わせ

ウ 授業に対するアドバイス

- ・足が硬く、下肢裏側の筋力がない。まずは筋力を柔らかげるため、もも裏やふくらはぎをマッサージし、長座姿勢を行ってみる。アキレスけんが伸ばせないのも、足が硬いため力を逃しているのではないか。過敏がある場合には、マッサージやストレッチの際にはタオル等を1枚使うと良い。体に触られるのが嫌なときには、無理をしなくても良い。
- ・ボディイメージができていないのかもしれないので鏡を使うと良い。
- ・動作を順番に言葉で説明すると分かりやすい生徒もいる。視覚的な方が良いか、聴覚的な方が良いのか、得意な認知方法を使うと良い。
- ・体を回転させる体操のときには、座って行う。慣れると少しずつ立っていく。
- ・体操のときには、手で持つところを作ると良い。
- ・前後、左右に足を広げるのが難しいときには足型を置くと良い。
- ・肩が硬そうだ。肩を上げる体操は、後ろから介助して肩を両手で持つと良い。
- ・鍛えることよりも体を上手に使うことをする方が良い。
- ・音楽の授業を受けるときの生徒の様子がとても楽しそうだった。楽しいことが子どもの意欲を引き出すと思う。

エ アドバイスを参考にした第1回研修会後の取組（指導・支援の方針）

- ・腰背部や下肢後面のストレッチを行う。
- ・背中を伸ばして、骨盤を立てる姿勢（正しい姿勢）を作る。
- ・座ったままで行える簡単な動きで体幹トレーニングを行う。

3 授業研修会 2

(1) 小学部 6年男子児童Dについて

ア 学習指導案

自立活動 学習指導案

日 時	11月27日（木） 5校時	部 科	小学部	学年・組	6月、5・6星 児童数3名
単元 (題材)	いろいろな動きをやってみよう。			場 所	自立活動室
授業者	大野泰伸 竹中智穂				
指 導 計 画	(2学期を通して指導)	本 時 主 題	体をリラックスさせ、教師と一緒に体を動かしたり、歩いたりしよう。		
	<ol style="list-style-type: none"> 1 姿勢を整えて挨拶をする。 2 呼名への返事、スイッチ操作をする。 3 身体部位への感覚刺激の入力（感覚の整え）と緊張の緩めを行う。 4 動作の模倣課題をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・立ったり座ったりする。 ・手を挙げる。 ・足や手を動かす。 5 歩行 <ul style="list-style-type: none"> ・マットやプチプチシートの上を歩く。 ・ミニハードルをまたいで歩く。 6 姿勢を整えて挨拶をする。 		本 時 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○骨盤を立て、背中を起こして座る。 ○筋緊張を緩め、体がリラックスした状態を感じる。 ○床を踏みしめて、まっすぐの姿勢で立つ。 ○教師の言葉掛けや動きのリードに応じて、立ったり歩いたりする。 ○体のバランスを取りながら、マットの上を歩く。 	
児 童 生 徒 観 ・ 単 元 観 ・ 指 導 観	<p>(児童について)</p> <p>本授業の対象児童は3名で、その内訳は、本校一般学級に在籍する6年生児童1名、重複障害学級に在籍する5年生児童1名、6年生児童1名である。それぞれ、筋緊張の強い部分や筋力の弱さにより、歩行の不安定さや動きのぎこちなさなど身体の動きに課題があり、日常生活場面において、安全面への配慮や体の変形予防、動作の支援が必要な児童たちである。興味のある活動場面で自分から活発に移動するが、体調の影響も受けやすい。体調に配慮しつつ、また、気持ちや意欲面を十分に把握しながら、教師が働き掛け運動面の課題に取り組んでいる。</p> <p>(自立活動の時間における指導について)</p> <p>3名の児童は、学校生活全体を通しての自立活動に加えて、「身体の動き」を主とした自立活動の時間における指導を1～2時間実施している。対象児童3名に対して教師2名で行っている本授業は、今年度、週1時間実施している。指導内容は、年間を通して、姿勢を整えて挨拶をする、身体部位を刺激して体の感覚を高める、筋緊張を緩め動きやすい体の状況を作る、体を安定させて歩行することなど、身体の動きに関する課題を設定した。また、2学期は、スイッチの操作や動作模倣を課題に加え、児童それぞれの実態やその日の体調、疲れなどの状態に応じて、動きを引き出す支援を行いながら課題の動作に取り組んでいる。</p>				

	(本時の指導について) ※児童Dの指導に関して 第1回の授業研究において、児童Dが安定した姿勢を取るための椅子や机の高さについて、作業療法士より助言を受けた。また骨盤や背をサポートするための背当ての使用についてもアドバイスを受け、教室の環境を改善した。本時は、「身体の動き」を主とした授業であるため、背もたれのない台に座ることで自ら体を動かして姿勢を整えるよう働き掛けを行う。動作課題については、これまで継続してきた流れに沿い、意欲を高め、主体的に課題に取り組めるよう支援をしたい。	
対象児童	実態	本時のねらい
D	6年児童。一般学級に在籍。 側わん(右脇の方へわん曲)があり、骨盤の高さに左右差がある。また、左股関節周辺や膝裏、足首が硬く、柔軟な動きが難しい。そのため、体を安定させて立つことが難しく、小走りで動き回ることが多い。 以前よりも次の活動への行動の切替えが早くなっている。音の鳴るおもちゃに興味を示す。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けを聞いて、良い姿勢を作る。 ・足裏で床を踏みしめて、まっすぐの姿勢で立つ。 ・足首を使いながら、ゆっくりと歩く。

○本時の展開

学習活動	時間(分)	児童Dに対する教師の支援と手立て・評価の観点
1 挨拶をする。 ・足裏を床に付ける。 ・手を太ももの上に付ける。 ・骨盤を起しし背筋を伸ばす。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「足」「手」「腰」「背中」「ぴた、とん、すっ」などの言葉を掛け、動きを引き出す。 ・背中が起きにくいときは、教師が骨盤に触れ、骨盤を立てる動きをリードする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分で体を動かして、姿勢を整えようとしたか。</div>
2 呼名により返事をする。 ・声を出す。 ・スイッチを押してV O C Aの音声を出力する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「声を出して返事をする。」ことを伝えてから、名前を呼ぶ。 ・スイッチを二つ提示し、どちらかに手を伸ばすよう促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">呼名を聞いて、声を出して返事をしたか。</div>
3 足裏等への感覚刺激を受けたり、身体部位の緊張をほぐしたりする。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を掛けながら体に触れる。 ・圧を掛けたり、軽く触れたりして、皮膚感覚や固定覚に働き掛ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体部位の緊張が緩んだか。</div>
4 模倣や教師のリードで体を動かす。 (1) 自分や教師の体の部位を押さえたり、たたいたりする。 (2) 両手を挙げる。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・模倣が難しい場合は、動かす部位に触れ、軽い力で動きをリードする。 ・挙手の際には、目標の位置として教師の手を差し出す。 ・立つときに、足が前方に出ている場合には、足の位置を手前に引くよう支援する。 ・座る際には、ゆっくりと座るよう、手を取って座るようにする。

<p>(3) 立つ、座る。</p> <p>5 床に足裏を付け、まっすぐの姿勢で立つ。 (児童Dのみ)</p> <p>6 歩く。 ・マットやシートの上を歩く。 ・ハードルをまたいで歩く。</p> <p>7 挨拶をする。 ・足裏を床に付ける。 ・手を太ももの上に付ける。 ・骨盤を起しし背筋を伸ばす。</p>	<p>7</p> <p>8</p> <p>3</p>	<p>教師の動きを見て、又は、教師の促しを受けて体を動かしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左足の下にマットを敷き骨盤が水平になるようにする。 ・床の方向へ力を加え、踏みしめる感覚を感じるようにする。 ・ゆっくりと歩くよう、スローテンポの歌を歌ったり、動きをリードしたりする。 <p>ゆっくりと体を動かそうとしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「足」「手」「腰」「背中」「びた、とん、すっ」などの言葉を掛け、動きを引き出す。 ・背中が起きにくいときは、教師が骨盤に触れ、骨盤を立てる動きをリードする。
--	----------------------------	---



始めの挨拶



立位での活動



足裏のマッサージ

イ 授業に対するアドバイス

- ・聞いていないようで聞いており、行動の切り替えがスムーズにできていた。
- ・児童に合わせてゆっくりのペースでされていたので良かった。背もたれのない椅子を使用していたのが良かった。
- ・寝転んだりするときは、色を決めたマットを使用すると良い。
- ・立位での活動はとても集中して取り組んでいて良かった。立位するとき右足のかかどが浮いていることが多いので、マットを敷いて同じ高さにしてはどうか。
- ・側わんの予防としては、ひねる（背筋をつける）・そらす（腹筋をつける）運動が良い。
- ・寝返り運動や寝転んで手を上げて物を取る運動を取り入れてはどうか。ボールにうつ伏せになって乗る。「揺れ」を入れると喜ぶ子どもが多い。
- ・足首・膝の裏が硬くどちらも完全に伸びないので、緩めるためにも、横になっての屈伸や、膝の前面や後ろをもんであげると良い。

ウ 今後の取組

児童Dについては、療育を受けているので今後とも関係機関と連携を取って指

導に当たりたい。また、自発的な動きが出るような人的・物的な環境を整えたい。

(2) 中学部2年女子生徒Eについて

ア 学習指導案

日常生活の指導 学習指導案

日時	11月27日(木) 6校時	部科	中学部	学年・組	第1学年A組 生徒数4名
単元 (題材)	身体を動かそう・下校準備			場所	中1A教室
授業者	中村優哉 渡部啓子				
指導計画	1 ストレッチや体操、軽運動を行う。	本時 主題	身体をほぐし、筋力や柔軟性を高めるための運動を行う。		
	2 連絡帳を書く。		一日を振り返り、明日の予定を確認する。		
指導計画	3 帰り仕度をする。	本時 目標	○様々な動きを通して、身体の動かし方や姿勢の保持の仕方を知る。		
	4 終わりの会を行う。		○今日の出来事を感想を踏まえて発表する。		
単元観・生徒観・指導観等	<p>一日の中で運動や体操など身体を動かす機会はあるが、集団での活動において動きや姿勢をゆっくりと確認する時間を確保することは難しい。毎日、学級(小集団)の中で身体を動かす時間を確保することで、筋力や柔軟性を高めるための動きや正しい姿勢を身に付けるようにしている。本学級の生徒は、運動が得意な生徒だけでなく不得意な生徒も在籍している。実態に応じて、それぞれの生徒が身に付けるべき動きや姿勢を個別に設定し、簡単な目標や具体的な目標を一つずつ達成していくことで成功体験を増やしたい。また、級友と一緒に身体を動かすことで、身体を動かす楽しさを知る機会につながることを期待している。</p> <p>終わりの会では、一日を振り返り、自分の身の回りで起こった出来事を発表することで、自分の気持ちや感情を表現する機会を確保する。集団の中でも自信を持って活動できるようになってほしい。</p>				
対象生徒	本時のねらい				
E	<p>ストレッチや体操、軽運動を行うことで身体をほぐし、筋力や柔軟性を高める。大きく身体を動かす。立位や座位で様々な姿勢を取り、姿勢を保持する。身体を動かしたり、姿勢を保持したりするために、身体のどの部位を意識すればよいかを知る。身体を動かすことに対する苦手意識を取り除き、前向きな気持ちを持つ。</p> <p>一日を振り返り、一つ一つの出来事を通して自分が何を感じ、どう思ったかを発表する。</p>				

○本時の展開

学習活動	時間 (分)	生徒Eに対する教師の支援と手立て・評価の視点
1 ストレッチや体操、軽運動を行う。	20	・姿勢や動きの見本を示してポイントを説明する。一つ一つの動きや姿勢を丁寧に確認して不安を取り除く。賞賛や言葉掛けを積極的に行い、運動への意欲を高める。苦手な姿勢や動きを行う際には、安全に留意して支援を行う。

		<p>教師が説明したポイントに注意してストレッチや運動を行っているか。</p> <p>取るべき姿勢を正しい形で保持しているか。</p>
2 連絡帳を書く。	10	<p>・座る姿勢の見本を示す。正しい姿勢が取っているか確認を行ってから連絡帳を書くように指示する。姿勢が崩れた際には、その都度言葉掛けや支援を行い姿勢の保持を促す。</p> <p>正しい姿勢（座位）を保持しているか。</p>
3 帰り仕度をする。	5	<p>・身だしなみが整っているかを確認する。忘れ物があった場合には、忘れ物がないかを自分で確認するように促す。</p> <p>一人で帰り仕度を行ったか。</p>
4 終わりの会を行う。	10	<p>・正しい姿勢で話を聞くよう言葉掛けをする。口頭での指示で正しい姿勢が取れない場合には、直接支援を行う。</p> <p>正しい姿勢で座っているか。</p>

イ 授業に対するアドバイス

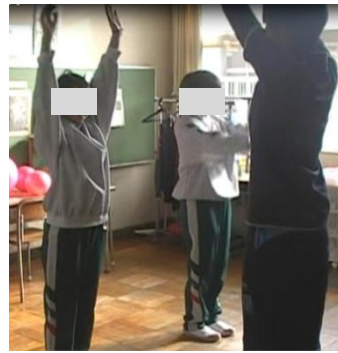
- ・前回伝えたことをしていただき効果が現れてきた。
- ・ゆっくり息を吐きながら行うように言葉掛けをしていることは良いが、実際には息を吐いているのだろうか。息を吐くことは体幹に良いので、吹き矢などの動きを取り入れてはどうか。
- ・ボディイメージが結び付いていないようなので、鏡を見て自分がどうなっているか確認する。自分の動きが分かり褒められることが良い。
- ・伸ばすときにその部分を触って感覚で伝えると良い。アキレス腱を伸ばすとき、何か持つ物があると安定する。
- ・座っている姿勢が崩れる場合は、滑り止めを敷くと良い。
- ・ストレッチは、シューズではなく素足の方が滑らなくて良い。

ウ 今後の取組

生徒Eについては、毎日継続した運動を始めてからわずかの期間であるが、肩回りの柔軟性が高まり、座位（写真）はもちろん長座の姿勢が正しく取れたり、伸脚も膝が伸びるようになったり、前後・左右に開くようになるなど成果が目に見えて現れてきた。また教師の直接的な支援を受け入れるようになってきた。できることが増えてきたので、自信につながっている。楽しみながら活動できるよう工夫して、指導を継続したい。



座位の変化



ラジオ体操



アキレスけんを伸ばす



ひねる運動

4 成果と課題（まとめ）

授業研修会では、生徒が緊張することが予想されたため、ビデオを活用することにした。参加する教師が授業の様子を視聴し、支援する前と後の様子を比べ、話し合いをすることができた。研究グループの全員が授業を参観することが難しい本校では、ビデオは有効な手立てであった。また、2回目の授業をする前に、授業者が指導の成果や授業のポイントとなる点（改善点）について説明し、具体的な支援の方法等について話し合った。そこでは、姿勢について普段気を付ける事柄などを再確認し、研修を深めることができた。

体幹を鍛えるための運動について、授業者がトレーナーの経験があり、どのような運動をすれば良いのかを知っていたため、効果的な指導ができ、大きな成果が現れたのではないと思われる。この知識を全教師で共有できるようにしたい。

日常生活に必要な動作の基本となる「姿勢」について、まずは正しい姿勢はどのようなものであるかを児童生徒自身が知ることが大切である。教師の直接的な支援や言葉掛けで正しい姿勢を取り、保持する時間を少しずつ延ばしていけるようにしていきたい。

楽しく取り組み、できたという自信がそれ以降の課題に取り組む姿勢に大きく影響する。課題に集中して取り組めるように言葉掛けをしたり、楽しく意欲的に取り組めるよう環境を整えたりすることが必要である。

遊びの中で自然に体を動かして身に付けていくボディイメージや粗大運動の内容を、改めて意識して学ばせていくに当たって、校内のアスレチックや遊具が減ってきていることは残念なことである。限られた環境の中で楽しく体を動かす経験ができるよう工夫をしていきたい。本研究では、2名の事例実践ではあるが多くの成果を得ることができた。今後とも継続して行うことが大切である。また本校には、自立活動の時間における指導を行っていないが、ちょっとした支援があれば助かる児童生徒がいる。さらに研修を深めていきたい。

ソーシャルスキルトレーニングの基礎と具体的な指導班

1 はじめに

ソーシャルスキルトレーニングの基礎と具体的な指導班は、小学部2名、中学部2名、高等部11名の教師で構成されている。ソーシャルスキルに困難がある児童生徒について、普段関わる児童生徒を思い浮かべ、どのような場面で困り感があったかについて情報交換を行った。その中で、相手の視点に立ったり場の空気を読んだりすることが苦手であることが挙げられた。気になる児童生徒の共通点として、相手にどう伝えたら良いのか、自分が言ったことが相手にどう取られるかが分からないことや、一つのことにこだわってしまうこと、集中しにくいこと、プライドが高いこと、どうしたら良いか分かっていないことなどが話題になった。共通の悩みや特に気になる事例に絞って、対応や支援の方法を探っていくことにした。ソーシャルスキルの指導について、個別の対応だけではなく、授業の中でどのような方法で進めていくかについても話し合った。対象児童生徒の特性（抱える困難さ）と、学級等の集団における人間関係等様々な要因が絡んでいくが、児童生徒が自分の特性を見つめ、困難な場面での対応の仕方を知り、搬化して他の場面で生かせるより良い内容と展開を考えながら進めていくこととなった。

研修を実施するに当たっては、臨床心理士を迎えて、授業研修を行った。

2 授業研修会 1

(1) 小学部6年男子児童Fについて

ア 実態表

項目	実態	年間目標
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことよりも、友達へ関心が向かうときがある。優しく接するときがあり、いろいろな面でよく気が付く。 話し言葉は教師に対しても友達のように話し、正しい言葉遣いや敬語を使用する支援が必要である。 お菓子等、食べ物に対して強い興味があり、それに対して頑張る反面、ごまかしや独占しようとする等問題が生じる場合もある。 教師の言動をまねて友達に接することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師との会話では、正しい言葉や敬語を使用する。 けじめを付けた正しい言葉を使う。 うそをつかない。
集団・社会性	<ul style="list-style-type: none"> 学校の持ち物を自分の物にしようと持ち帰ったりする。 自分が1番にしたい、なりたいという気持ちが強く、友達とトラブルになる。言い合ったり、けんかをしたり、仕返しをしたりする。仲直りの場では、自分の非を認めず黙ってしまうところがある。 友達の癖や性格をよく捉えて発言をする。 集団で発表するときは恥ずかしがり屋である。 リーダーとして活躍したい気持ちが強い。 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーとして頑張る。 友達と仲良くする。 約束を守る。

	・自分勝手な行動があり、集団行動の約束を確認して支援する必要がある。
--	------------------------------------

イ 学習指導案

生活単元学習 学習指導案

日時	9月30日（火）5校時	部 科	小学部	学年・組	第6学年月組 児童数6名
単元 (題材)	紙すきでメダルを作ろう			場所	6年月組 教室
授業者	水田 勲 新口奈苗				
指導計画	1 紙すきをしよう ……4時間 (本時その2)	本時 主題	紙すきをしよう		
	2 メダルを作ろう ……1時間	本時 目標	○友だちと協力して紙すきを意欲的に取り組む。		
単元観・児童観・指導観等	<p>本学級の児童は、小学部最高学年として小学部行事等でリーダーを務める機会が多い。本年度の小学部秋祭り集会で企画している相撲大会に向けて、高学年体育で押し相撲の練習を積み重ねてきている。入賞者がメダルをもらえることで期待を持って取り組んでいる。紙すきは1学期に初めて取組み（3時間）、七夕の短冊、転校生への色紙を作成した。作業の手順を覚えており、意欲的に取り組める題材だと考える。材料の絵と名前のマッチング、声に出して言う、線に沿って切る等の活動において、自発的な動きを引き出せるよう支援を工夫したい。</p>				
対象児童	本時のねらい				
F	<p>作業内容を理解し、リーダーとしてグループをまとめたり、友達へ言葉掛けを行ったり、主体的に活動する。 いろいろな場面での気付きや気持ちの流れを大切にして、友達との関係や自分を知るきっかけにつなげる。</p>				

○本時の展開

学習活動	時間 (分)	児童Fに対する教師の支援と手立て・評価の視点
1 挨拶をする。紙すきの作り方の確認と協力して作ることを知る。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動の内容を知らせ、見通しを持たせる。 ・ホワイトボードに作業手順と名前を順次掲示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">本児の作業内容とその手順を理解したか。</div>
2 グループで話し合う。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・2グループに分かれ、掲示物を活用して、自分の役割を知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">リーダーとして話し合いを進められたか。</div>
3 作業の手順に従って紙すきをする。	20	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが主体的に発言して展開するよう見守り、支援する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">リーダーとして協力して紙すきをしたか。</div>

4 感想を發表する。終わりの挨拶をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・メダル完成に対する期待感を高めるような言葉掛けをする。 ・良い姿勢で、声を出して挨拶をするよう促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">姿勢を意識して、静止して挨拶したか。</div>
----------------------	----	---

ウ 授業に対するアドバイス

クラス6人のコミュニケーション能力は、通じている部分がそれぞれ違うので、F君は直感的に大人受けしようとする子どもであるように感じた。お菓子を盗むことに対して、家庭的に貧しくて食べていない状況と言うより、あのクラスの中でならいくらでもごまかせると思っていると感じる。自分で考える時間（間）を考えているところが先生の素晴らしいところだと思う。非構成的SSTという方法で、指導者が言いたいことはすぱっと言って止める、後は考えさせるものである。本児のターゲットスキルにするのなら、自分に非があるときの謝り方についてのSSTを考えると良いのではないかと思う。

(2) 高等部2年男子生徒Gについて

ア 実態表

	実 態
問題と 感じる 事柄	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意に反する事柄や強い指導に対して、反発する。 ①校内実習中、先生に頼まれた仕事に対して、他の生徒がやりたいと言ったとき、「俺の仕事だ。」と怒り出した。言い出したらくどく、相手生徒がたまらなくなっていて泣いてしまった。すぐに反省はするが、相手生徒がなかなか許してくれなかった。翌日は仲良くしていた。 ②運動会の朝、熱が出た。寄宿舎指導員から「学校に行かずに様子をみよう。」と言われると「これくらいどうってことはない。」と偉そうにくってかかった。養護教諭が体調を心配していることを優しく伝えると気持ちを落ち着けていった。 ③産業科の生徒として、支援の必要な児童生徒や低学年の児童生徒と一緒に行動することを任されるが、自分の言うことを簡単に聞いてもらえないので、相手をののしったり、引っ張ったりすることがある。
解決 すべき 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意図を理解しにくい。 ・なかなか感情を抑えられない。(不満をくどく言い続ける。)
支援の 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者側の心構えとして、納得すれば落ち着くので諭すように伝える。 ・周囲のいろいろな気持ちや考えを知らせ、受け止めることの経験を重ねる。 ・不満をくどく言い続けることに対して、自分の気持ちの伝え方を練習する。 ・戦隊ものが好きなので、キャラクターを利用しながら仲間や大人とのやり取りの仕方をイメージしやすく伝える。

イ 学習指導案

職業科 学習指導案

日時	9月 30日 (火) 6校時	部 科	高等部	学年・組	第1学年F組
単元(題材)	自分のことを知ろう			場所	高等部1F教室 生徒数8名
授業者	大森哲也 山口 淳				
指導計画	1 自分の長所・短所を考える …1時間 2 友達の長所を考える…1時間 3 短所を克服しよう…4時間 (本時その2時間目)	本時 主題	友達の意見から、短所の克服方法や自分の長所発見を行い、自己理解を深める。		
本時の 目標	○友達の短所克服のために真剣に考え、積極的に発表する。 ○友達の意見や自分の長所から、短所を克服するヒントを得、自己肯定感を高める。				
単元観・ 生徒観	生徒たちは、卒業後の進路についてまだまだ具体的に考えてはいない。自分の性格・特徴をつかむことが、将来の夢の実現に大切であることを理解させるために上記の単元を設定した。 生徒たちは明るく素直で何事にも真面目に取り組むが、社会性や自己肯定感に乏しいため、行動に自信が持てない。友達の意見を参考にしたり、自分の長所を生かすことが、短所を克服するために必要なことであり、将来の職業観につながることを感じ取らせたい。				
生徒	本時のねらい				
G	自分の短所克服のために友達の意見やアドバイスを聞き、メモを取る。友達の短所克服の意見やアドバイスが、自分の短所克服へのヒントとなることを理解する。友達によって、自分が気付いていない長所を伝えてもらい、自己肯定感につなげ、自分を認めてくれる仲間の存在を感じ取る。				

○本時の展開

学習活動	時間(分)	生徒Gに対する教師の支援と手立て・評価の視点
1 自分の短所発表 ・ Gが自分の短所を発表する。 ・ 他の生徒はGの短所をワークシートに写す。	5	<ul style="list-style-type: none"> 本時は、Gの短所克服について話し合い、Gが有意義な学校生活を送れるように全員で考えることを伝える。また、それがGのためだけではなく、自分の短所克服につながり、それぞれの学校生活にプラスになることを伝える。 他の生徒が理解しやすいように、Gに自分の短所を丁寧に黒板に書くように促す。 <p>明確に自分の短所を発表し、丁寧に黒板に書いたか。</p>
2 短所克服に向けて ・ Gが短所を克服できるように、一人一人がアドバイスを考え、ワークシートに書く。 ・ Gも自分の短所	22	<ul style="list-style-type: none"> Gが短所を少しでも克服できるように、その方法を一人一人が真剣に考え、Gへのアドバイスをワークシートに書くよう伝える。 G自身も自分の短所を振り返って、今後どう克服していくのか考え、その方法をワークシートに書くように話す。 <p>短所克服方法を真剣に自分のこととして考えたか。</p>

<p>を克服するための案を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Gを中心に円状に机を並び替える。 ・ Gは自分の案を発表する。 ・ 友達がGに対するアドバイスを発表する。はそのアドバイスをメモする。 ・ Gが、友達からのアドバイスの中から自分に適したものを発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ Gを中心にすばやく机を円状に移動し、話しやすい雰囲気を作る。 ・ 短所の克服方法を相手が理解できるように、大きな声でしっかりと発表する。 ・ Gは、友達からのアドバイスに疑問を感じたら、その都度質問しても良いことにする。 ・ Gに、今後の短所克服に向けて、友達からのアドバイスをしっかりと記録するように話す。その中から、自分に適したアドバイスを発表するように促す。 <div data-bbox="651 577 1402 633" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発表の仕方や記録の取り方に問題はないか。</div> <div data-bbox="651 651 1402 745" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分に適したアドバイスを見付けることができたか。</div>
<p>3 友達によるGの長所 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人がGの長所を発表する。 ・ Gは自分が気付いていない長所を感じ取る。 	13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人が、Gの長所を大きな声で、Gに分かりやすく発表するように伝える。 ・ あらかじめGには、友達からの発表を静かに聞くように話しておく。 ・ 友達からのGへの長所は、後でコピーしてGに渡すことにするのでファイルにとじておくようにする。 <div data-bbox="651 1093 1445 1137" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">長所を真剣に考えているか。聞く態度は問題ないか。</div>
<p>4 感想発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Gが本時の感想を発表する。 ・ 生徒全員が教師の話を集約して聞く。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達が考えてくれたアドバイスや新たな長所発見に対する感想を、感謝を込めて発表するように促す。 ・ 一人一人は必ず長所を持っており、それを伸ばすことで短所克服につながることを伝える。 ・ 自分の長所・短所から自己理解を深めることの大切さや職業選択に役立つことを話す。 <div data-bbox="651 1473 1393 1529" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">しっかりと自分の言葉で感想が発表できたか。</div>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒たちが話しやすい雰囲気を作るため、机の配置を円状にした。 ・ 友達から出してもらった自分への長所は、いつでも確認できるようにファイルにとじることとした。 ・ クラスの人間関係を深めるため、友達からのアドバイスや長所発表を受けて感謝の気持ちを発表することとした。 	

ウ 授業に対するアドバイス

自分の短所から長所について考える授業を行うことは、とても勇気があると感じた。短所を改善していく方法を生徒が具体的に発表したときに、実際にやってみせ、実感させると良かった。生徒自身が気付いていない点をしっかりアドバイスすると良い。短所を挙げながら、出てくる長所を生かして得意分野で活躍できるようにすることも大事である。

エ アドバイスを参考にした第1回研修会後の取組

児童生徒の困ったところや課題となる点にばかり目を向けるのではなく、その子の持つ良いところ、伸ばしてあげたい点に注目して、支援を考えることが大切であることを学んだ。また、自分を誰かに置き換えたり場面を置き換えたりして考えるのが苦手である特性を知り、聞くこと、書くこと、考えることを区別しながら構成的、意図的に授業を組み立てることを意識する必要があると感じた。SSTは、組立て方やターゲットの絞り方が重要になってくる。直したいマイナスのターゲットは訂正が難しく、繰り返すことを知り、具体的な場面での具体的なモデルを示すことを心掛け、得意なことを伸ばすことでレベルアップを図ることを確認した。

3 授業研修会2

(1) 小学部6年男子児童Fについて

研究授業を予定していたが、授業を実施できず、臨床心理士による児童Fのカウンセリングが行われた。Fが抱えている家庭的な問題が話題となり、時間が足りないくらいに話した。本人との懇談後、本人の生育歴や現在の状況を総合的にみて、他の子が同じ状況に置かれたとしたらもっと他害的な行動になるし、反社会的な行動になるが、落ち着いていると感じられたそう。本人の気持ちを受け止めながら、指導したいことを十分な説明とともに伝えることが大切であることの助言を頂いた。

(2) 高等部1年男子生徒Gについて

ア 学習指導案

職業科 学習指導案

日 時	11月 27日 (木) 6校時	部 科	高等部	学年・組	第1学年F組 (生徒数8名)
単元 (題材)	働く上で大切なことを考えよう			場所	高等部1F教室
授業者	大森哲也 山口 淳				
指導計画	1 校内実習の反省をしよう …1時間 2 働く上で大切なこと…1時間 (本時) 3 校外実習に向けて…1時間	主題 本時	保護者の意見を参考に、働く上で大切なことを理解し、自分の問題点を明らかにするとともに、その対処の仕方を考える。		
目標 本時	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の意見から、働くことの厳しさや難しさを感じ取り、今後の学校生活や家庭生活の在り方を考える。 校内実習や卒業生の職場で実際に問題となったことを取り上げ、その対処の仕方を学ぶ。 				
単元 観・ 生徒 観等	<p>生徒たちは、普段の作業学習や前後期の校内実習を通じて、少しずつ働くに当たっての大切なことや働くことの意義を感じ始めている。来年度に行われる校外実習を意識するために、また、今後の学校生活の中で働くことを意識するために、上記の単元を設定した。</p> <p>生徒たちは明るく素直で何事にも真面目に取り組むが、失敗を恐れるあまり行動が消極的であったり、問題が生じたときにコミュニケーション不足だったりする。自分たちの校内実習から明らかになった問題や卒業生の職場で起こっ</p>				

	た問題の解決策を考えることで、今後の学校生活に生かせるようにしたい。
対象生徒	本時のねらい
G	大好きな母親の「働くことで大切なこと」に関する意見を意識し、将来について考える。 校内実習で起こった問題からコミュニケーションの取り方を考える。

○本時の展開

学習活動	時間(分)	生徒Gに対する教師の支援と手立て・評価の視点
1 本時の目標理解 ・教師の説明を集中して聞く。 ・前時に使用したプリントを準備しておく。	2	・校内実習の反省や保護者の意見から、働く上で大切なことを学び、今後の学校生活に生かすよう伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">顔を教師の方に向けて、真剣に聞いているか。</div>
2 働く上で大切なこと ・前後期の校内実習から学んだことや成長した点を発表する。 ・自分の保護者の意見から自分が問題と思っている点をチェックする。	15	・働くことの楽しさや達成感が感じられるよう、実習で成長した点を挙げる。 ・Gが実習から成長した点を挙げ、みんなの前で褒め、自信につなげる。 ・自分たちに不足している点を確認し、働く上で大切なこととして自覚するよう、保護者の意見を確認する。 ・Gの母親の意見から、G自身が働く上で大切なことを学び、働くことの意識を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">しっかりと自己評価を行い、保護者から学んでいるか。</div>
3 働く上で問題が生じたときの対処の仕方 ・働く場面を設定し、職場での会話から私たちが陥りやすい問題を考える。 ・卒業生が職場で悩んだことを取り上げ、その対応の仕方を考える。 ・校内実習で起こった、Gと友達のいざこざからコミュニケーションの大切さを考える。	25	・保護者の意見から、「自分で考え行動する。」「失敗を恐れず、前向きに取り組む。」「協力し合う。」の3点を取り上げ、その対処の仕方を学び、今後の学校生活に生かす。 ・副担任と寸劇を行い、指示待ちにならないよう「自分で考え行動する。」ことの大切さを考える。 ・卒業生が職場で悩んだことを寸劇で表し、「前向きに取り組む。」ことの大切さを考える。生徒自身が卒業生の立場であったらどうするか、考えるように促す。 ・校内実習で起こったGと友達のいざこざから、どうすれば協力し合う関係が築けたのか考え、発表する。 ・Gも友達も、他の意見からコミュニケーションの取り方を学び、今後のクラス内における人間関係をより良いものにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">対処の仕方を自分のこととして考えているか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">積極的に自分の意見を発表しているか。</div>
4 まとめ ・本時の学習内容についてまとめる。	3	・働くこと、将来のことを少しずつ意識するように言葉掛けを行う。 ・今後の目標として、身近なクラス内の人間関係を良くすることを伝える。

現在の生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・校内実習中、友達とけんかしたことを反省しており、学校では友達と仲良くしようとする気持ちがある。 ・寄宿舎では、障害の重い生徒と関わることもあり、イライラした状態であることが多いが、母親に注意されるのが嫌なため我慢している。 ・部活動をしたり、休日に好きなテレビ番組を見たりすることで気分転換を図っている。
前回の授業から改善した点	<ul style="list-style-type: none"> ・母親が大好きで、母親の言うことはよく聞くし、母親に叱られたくないという気持ちが強いため、家庭との連絡をより密にする。 ・褒めることで、意欲を引き出し、少しずつ自信を付けるようにした。 ・働くことについて、生徒たちのより身近な存在である保護者から意見を聞くことで、日頃学校で指導を受けている内容と変わらないことを感じ取るようにした。 ・リアルな様子を感じ取らせるために寸劇を行い、現実起こった具体的な場面を見せることで対処の仕方考えることにした。

イ 授業に対するアドバイス

親の意見を子どもに伝えるのはとても影響力のあることだが、このG君の親が記入したことについて、果たしてG君に伝わるのだろうかと思った。保護者へのアンケートを取る際に、その趣旨を理解してもらって子どもに伝わりやすいような形で行うと良い。今回の授業では、個別に焦点を当てるという授業は難しかったように思うが、他の生徒にも考えさせることは大切なことなので、ある意味楽しく見させてもらった。自分の成長を認識させるのであれば、もう少しつくと良かった。寸劇を通して考える場面では、具体例を挙げて工夫されていた。この後登場人物がどう言うかという問い掛けとどう思ったかという問い掛けは異なり、生徒にとってはこの差が難しい。題材に書かせ方、言わせ方の工夫があると良い。

ウ 今後の取組

中島先生の話から、高校や高等部を卒業して就労したときにも、困難な場面に遭遇することや、生徒は真面目であるがぎこちない言動で失敗していくということを話題にされた。望ましい言動を聞いて分からせるではなく、トレーニングをしていって経験値を積んでほしいと話された。教師とのやり取り一つ一つが訓練になっていくということで、私たち教師の力量を高める必要がある。

4 成果と課題

授業研修前は、授業や行事の中で、その場その場で、ソーシャルスキルの向上を意識して指導をしてきた教師が多かった。授業の中でプリントや寸劇を取り入れて相手と気持ち良く付き合うためのルールを意識するような取組や、個別に望ましい行動について丁寧に説明する取組等、個人や集団に合わせて実践してきた。

今回、この研修を通して、児童生徒の困ったところや課題となる点にばかり目を向けるのではなく、その子の持つ良いところ、伸ばしてあげたい点に注目して、支援を考えることが大切であることを学んだ。授業を組み立てる上で、場面を置き換えて考えるのが苦手であったり、問い掛けの仕方によって回答が変わってきたりするというような生徒の特性を十分に踏まえて展開しなければならないことも教わった。アンケートを採る際には項目を明確に具体的にすることや、友達同士の意見交

換の場を持つことで本人の自発的な自省につながっていくことなど、教材や発言をいかに深めていくかについても考えるきっかけとなった。教師の意識が高まったことが大きな成果と言える。望ましい行動について、継続的に伝えることで、教師や友達からの助言を受け入れやすくなったり、自分で考えて行動したりする様子が見られる児童生徒もいた。しかし、定着や応用という面では引き続き支援が必要であると思われる。

授業としてテーマを掲げてSSTを行う場合は、集団を構成する使途の課題や理解力が異なり、難しさも感じるが、集団生活を送る上での決まりやマナーに触れる際に、一人一人に合った問い掛けをしながら意識を高め、一人一人の力を伸ばしながら集団としての力も高めたいと考える。児童生徒の障害の特性、性格、思い等を理解し、児童生徒に合ったコミュニケーション方法や指導内容を見直していく必要がある。これまで行ってきた自分たちの授業の中でどれがSSTに当たるかを振り返り、知的発達に遅れのある児童生徒に対するSSTについても考えるきっかけとしたい。

今後は、子どもの行動を観察するときに、なぜそのような行動を取ったかという点について考えることや、その背景や原因を推察することで、支援について考えながら授業を行うようにしていきたい。学校生活の中でいろいろな経験値を多くし、人との関わり方等のトレーニング要素を取り入れていきたい。

I C T活用・A T活用班

1 はじめに

本校には小学部、中学部、高等部、訪問教育がある。高等部には普通科と産業科があり、産業科には将来一般事業所への就業を希望する生徒が多数在籍している。小学部、中学部、高等部の各学級にはパソコンが配置されている。パソコンの使用状況は各部によって様々であるが、インターネットを利用した情報収集が主である。近年は小学部、中学部を中心として教師個人のiPhoneやiPadの利用なども見られ始めてきていた。昨年度より愛媛県インクルーシブ教育システム構築事業により10台のiPadの導入があり、小学部や中学部はもとより高等部や訪問教育でもそれらを活用した教育実践が普及しつつある。今回はそのiPadの活用を中心とした報告を行う。まずは、各部の生徒の実態を紹介する。

小学部には、1年生から6年生まで合わせて25名の児童が在籍しており、障害の実態は様々である。児童の多くは、アニメーションや音楽に興味を持っており、授業の導入の際などにプレゼンテーション用ソフトを使って説明することで、授業に興味を持ちやすい。また、スケジュール表では、児童の実態に合わせて、写真やシンボルを使用することで、活動内容が理解しやすくなっている。タブレット端末の使用については、迷路アプリや画面をタッチして音楽や画面を切り替えるアプリを通して、タップやスワイプといった基本的な操作の方法を学んでいる児童がいる。授業の中では、平仮名練習アプリを通して、書き順の確認をしたり、かるた取りのゲームをしたりして、文字の勉強をしている児童がいる。タブレット端末の使用を通して、順番を待ったり、優しく物を扱ったりするなどのルールも共に学んでいる。

中学部では35名の生徒が在籍しており、学校生活全般において、様々な場面でタブレットを活用している。活用例としては、視聴覚的な支援のツールとしてプレゼンテーション機能を活用している事例が多い。また、教科等の授業については、例えば国語の授業では、電子絵本を作成し導入で使用することで、授業への興味や関心が高まってきているという報告もある。生徒たちは休み時間の利用を通して、タップやスワイプ、アプリの切替えなどの基本的な操作方法を習得している。生徒の活用例としては、職員室への入退室時や短学活の司会など、代替コミュニケーション手段として利用したり、着替えの手順表として使用したりしている。

高等部では、普通科64名、産業科46名の生徒が在籍している。その中でiPadを家庭で活用し、日々触れている生徒は、普通科と産業科を合わせても2%である。操作が似ているスマートフォンを活用している生徒は10%程度である。高等部の生徒たちにとっては、これらの機器は身近なものとは言えず、日常的にiPadなどを使用する機会は少ない。しかし、指一本でスクロールしながらゲームや画像や音楽が楽しめることに魅力を感じ、ほとんどの生徒がiPadの活用に興味関心を示している。普通科の生徒は、一人一人の障害の程度によって個人の能力差が大きい。コミュニケーションツールとしてなど個々に応じたアプリを使用して教育的効果を試したい生徒は各クラスに数人ずついる。実際にコミュニケーションツールを活用することによって、より良く学校活動に参加できるようになった生徒もいる。産業科の生徒は、実習や学校行事等の報告会、各教科の発表等でのプレゼンテーションをノートパソコンからiPadに変えても抵抗なくスムーズに操作し、発表する。iPadの活用にも意欲的であり、校外学習で持ち出して地図を調べたり、行きたい場所の検索等を

したりしてみたいという要望もある。今後もいろいろなアプリを使用してより良い学習を行っていきたいと考えている。

訪問教育に在籍している児童生徒は9名いる。在宅の児童生徒も、施設に入所している児童生徒も、日常生活でiPadを利用する機会はほとんどない。訪問教育の児童生徒は障害の程度が重く、座位を取る時間が限られていることもあり、授業以外でiPadを始めとするタブレット端末と向き合う時間はごく少ない。また、体にまひがある児童生徒も多いので、滑らかな画面に触れて適切に操作するのは難しい。しかし、iPadに興味・関心を示す児童生徒は多い。授業で絵本アプリや音楽アプリを見せると、画面を注目する。視力が弱く、普段テレビもあまり見ない生徒も、目の前にiPadを提示されるとよく見る。また、タップすると画面が変化するのを喜び、自分から手を伸ばして触れようという意欲を見せるなど、目と手の協応動作を促進したり、上肢の目的的な動きを促進したりすることにも効果が見られる。さらに、iPadタッチャーなどを利用して外部スイッチと接続すると操作の仕方も簡単になり、授業での活用の幅も広がると思われる。

2 授業での実践例

(1) BGMを活用した行動の切替えを促す支援（小学部）

ア 対象児童の実態

小学部1年生の児童2名で、日常生活の指導を主として学習している。言語や写真、シンボルを使った指示だけで、次の活動に移ることが難しく、次の活動に使用する具体的な物を見せたり、直接的に支援したりして活動を切り替えていた。2名とも音楽が好きで、気に入った曲が流れると体を揺らして喜んだり、笑顔を見せたりする。

イ 活動の目的及び具体的内容

【目的】活動場面を切り替える際に、決まった音楽を流すことにより、音楽を聞いて次の活動へ移行する。その際に、タブレット端末とBluetooth対応のスピーカーを使用することで、教室内どこからでも音楽の切り替えができるようにする。

【内容】まず、場面に合わせた曲を決めた。切り替えの場面として、「片付け」「着替え」「給食」の3つの場面を選んだ。CDからパソコンに音楽を取り込み、パソコンとタブレット端末を同期することで音楽をタブレット端末に保存した。iTunes内にプレイリストを作り、すぐに再生しやすいように準備した。

指導の初期は、音楽を掛けると同時に、教師が直接的に支援を行い、一緒に片付けを行ったり、着替えの場所へ連れて行ったりした。繰り返し指導を続けると、音楽を聞くことで、片付けを始めたり、給食用の籠を準備したりするようになった。



図1 Bluetooth対応
スピーカー

ウ 取組の成果

タブレット端末を使い、Bluetooth対応のスピーカーより曲を流すことで、児童が自ら次の活動に移れるようになった。タブレット端末を使うことにより、CDのように入れ替える必要もなく、教室のどこからでも曲を流せるという利点があり、指導を継続しやすかった。また、授業の中では、場面に合ったBGM

Mをすぐに探し出し流すことで授業の雰囲気作りがしやすくなった。

(2) プレゼンテーションアプリを使用した単元導入時の活用（小学部）

ア 対象児童の実態

小学部の児童の実態は様々ではあるが、説明を聞く際に、プレゼンテーションアプリを使い、画面が動いたり、音が鳴ったりすると興味を持って聞くことが多い。また、説明の中で出てくる教師からの問題に画面に触れて答えたり、ボタン押して答えたりすることを楽しみにしている。

イ 活動の目的及び具体的内容

【目的】小学部全体へおすもう集会の説明をする際に、プレゼンテーションアプリのKeynoteを使い、写真や絵、音楽を使ったスライドを準備し、児童たちが説明の内容を理解しやすいようにする。説明の中で、児童に対する問題のスライドや力士を倒す遊びのスライドを準備し、児童が参加することで説明が進んでいくようにする。

【内容】Keynoteのスライドで、カレンダーの中から指定された日付を探し出すスライドを作り問題を出す。正しい日付を選ぶことができると、「○」の図形とともに、「ピンポン。」の効果音が出るように準備した。また、スライド内に現れる力士をつっぱりで倒すスライドを準備し、ビックマックとマウス（※）を接続し、ビックマックをタッチすることで画面の力士が弾んだり、小さくなったりするスライドを準備した。

（※）マウスにスイッチ機器を接続できるようにピンジャックを取り付けた改造マウス。



図2 ビックマックを使用中

ウ 取組の成果

スライドを活用して説明することで、児童たちは興味を持って説明を聞くことができていた。カレンダーの中から日付を選ぶ場面では、「選んでくれる人。」との問い掛けに対して、多くの児童の手が上がった。代表で答えた児童は、「○」が出ると笑顔で喜んでいて、ビックマックを使ってスライド内の力士と対決する場面では、スイッチを押すと力士が動くことに気付き、何度もスイッチを押して、力士が小さくなっていくのを確認していた。タブレット端末を操作するのに慣れていない児童も、大きなスイッチを押すという分かりやすい操作だったので、多くの児童が参加し、楽しむことができた。

(3) 修学旅行の事前指導における動画の活用（中学部）

ア 生徒の実態

本学級には、自閉症スペクトラムや知的障害の診断を受けている生徒たちが在籍している。同じ診断名の生徒であっても、言語理解はあるが発語がなかったり、コミュニケーションを取ることが苦手だったり、障害の特性は様々である。

イ 活動の目的及び具体的内容

【目的】言語による話や指示を理解することが難しい生徒にとって、視覚的な支援を入れることで効果的な学習効果を期待できる。さらに、写真やイラストだけではなく、動画や音楽も組み合わせることで、生徒たちの興味や関心も引き出せる。そうすることで生徒たちは意欲的に授業に取り組むようになる。

【内容】使用するアプリは「完璧な動画」という、動画編集アプリである。このアプリの特徴は、動画編集という操作を視覚的に行うように作られているので、操作が分かりやすいということである。また、トリミング、文字や音楽の挿入や単純に動画の組合せ編集などの機能を持っている。バイキング形式での食事のマナーについて学習活動を展開する上で、○×クイズ形式にして生徒に提示することにした。クイズはマナーの問題になる部分を教師が演技したものを動画で撮影し、「完璧な動画」を使って編集したり、組み合わせたりした。

ウ 取組の成果

授業では、生徒たちは動画を食い入るように見ながら、バイキング形式での食事のマナーについて考えていた。興味がなく画面に注視していない生徒でも、音楽が鳴れば注視するなど、視覚や聴覚に訴えることができ、楽しく授業をすることができた。

(4) コミュニケーションツールの活用（高等部普通科）

ア 対象児童生徒の実態

対象は、場面緘黙の女子生徒である。現在、家庭では家族と普通に話をするのが、学校では声を出して話すことはない。本校には、高等部から入学し、1年生でも学校で声を出して話したことはない。人に対して緊張感が強く、新しいことや環境に慣れるまでに時間が掛かる。しかし、電話では話をすることができ、2年生になってからは担任だけでなく、クラスの友達とも話せるようになってきた。

イ 活動の目的及び具体的内容

【目的】朝の健康観察や授業中、休み時間など様々な場面でタブレット端末を使用することで、声は出さなくても周囲へ自分から意思表示し、積極的に関わろうとする。

【内容】使用したアプリは、「Drop Talk HD」「しゃべって - 手書き文章をあなたにかわってしゃべります」「かなトークPlus」の3つである。

「Drop Talk HD」は、校内実習中に使用した。健康観察や作業の報告時に本人が操作して活用した。初めは、自分がタッチして音が出るのが気になる様子で、なかなかタッチできなかったが、慣れてくるとタッチできるようになった。作業ができたときには、「できました。」というパネルをタッチして、教師に知らせた。利用する言葉をまとめて、キャンバスに入れておくことで、操作がしやすかった。右上の単語を選択すれば、その言葉がすぐに流れる。文章を選択すれば、5つまでパネルを選ぶことができ、連続して言葉が流れるようになっている。発音も比較的是っきりしているので、聞き取りやすい。自分でパネルを作ることができるので、必要な言葉をどんどん増やすことができ、便利だった。

「しゃべって - 手書き文章をあなたにかわってしゃべります」は、様々な場面で使用した。指で書いた文字を認識して画面下に表示される。正しく変換されていれば、「話す」ボタンを押すと、書いた内容をしゃべってくれる。発



図3 「Drop Talk HD」
の使用画面

音は明瞭なので、聞き取りやすい。書く場合は、縦書きよりも横書きにした方が認識しやすく、短い言葉で返答したり、話し掛けたりする場合に便利だった。

「かなトークPlus」は、国語の作文や感想発表の際に使用した。作文発表では、事前に書いた文章を打ち込んでおき、活用した。長い文章でも読むことができるが、発音が機械音的で聞き取りにくかった。また、パネルの位置が一字消去と全削除と濁音が横一列に並んでいるので、生徒が打ち込んでいる最中に間違えて全部消してしまうことがあり、何度もやり直さなくてはならなかったのが大変だった。

ウ 取組の成果

生徒がタブレット端末を利用することで、意思表示を行うツールが増えた。操作自体は簡単で、ホワイトボードなどに書くよりも時間も短くて済み、音声によってより多くの人への意思表示も可能になった。現在は、学校のものを利用しているが、今後、私物のタブレット端末を持ち、いつでもどこでも気軽に使える環境ができれば、より使用頻度も増し、更に充実したツールになるのではないかと思う。

(5) 歯磨きアプリを使った歯磨き指導（高等部産業科）

ア 対象児童生徒の実態

生徒たちは、給食後歯磨きを必ずしているが、自己流の方法で磨き、あまり歯ブラシを動かさず、くわえている時間が多い生徒やごしごしと短時間で磨く生徒、鏡を見ながら丁寧に磨く生徒と様々である。また、歯科検診の結果歯科受診が必要な生徒も半数以上受診していない。歯の健康について意識している生徒は少ない。

イ 活動の目的及び具体的内容

【目的】昼食後の歯磨きの場面で使用し、磨き残しがないように、丁寧に磨く方法を学ぶ。

【内容】iPadを教室にある大型のモニター（50インチの液晶テレビ）にケーブル1本で簡単に接続できる。iPadの画面を液晶テレビに出力することができるので、1クラス7人全員で、テレビ画面を見ながら内容を確認することができる。

使用するアプリは「5分歯みがき」で、このアプリは、5分間の設定時間に沿って画面に出ている歯の上を歯ブラシが動いていく。画面の歯ブラシの動きに沿って歯磨きをすれば、時間一杯歯磨きができる。保健師による「歯磨き教室」の授業を受けて、磨き残しがたくさんあることが分かった。そのためこのアプリを使い、画面の歯ブラシと同じように歯ブラシを動かすことで、歯を順番に時間を掛けて丁寧に磨くことを学んだ。



図4 歯みがきの様子

ウ 取組の成果

生徒たちからは、「5分間掛けるととてもすっきりした。磨く順番が分かった。」「歯の裏の磨き方が難しかったが歯ブラシの向きが分かった。」などの感想があった。寄宿舎からも、生徒たちが自分で気を付けて丁寧に磨くようになったと報告を受けた。養護教諭にも実践の様子を見てもらい、助言していた

だいたいで生徒たちの意欲も高まった。歯磨きを体で覚えることができ、同じ場所を何度も磨いていたことに気付いたり、磨いたことがなかった部分が分かったり、磨き残しがなくなってきた。週に1回でも5分間丁寧に磨くことは効果的だと思われる。歯磨きは個人であるものだが、時間を決めてクラス一斉に取り組むことで生徒たちもお互いを見合って丁寧に磨き、歯磨きに対する意識も変わったのではないかと思われる。高校3年生の実践であったが、小学校の段階からアプリを見て習慣化していくことが理想である。

(6) 訪問教育での実践

ア 対象児童生徒の実態

高等部訪問教育2年の女子で、障害者福祉施設に入所している。授業は週3回、2時間ずつ行っている。障害名は脳性まひ。筋緊張が強く、普段は両肘を曲げた状態にいるが、何かに触ろうと意識すると、自分で肘を伸ばすことができる。興味のあるものには自分から触ろうとする。自力歩行は不可だが、寝返りは一人でできる。自分の名前や「気を付け」など、簡単な言葉は理解しているようだ。名前を呼ばれると、教師の手に触れて返事をする。音楽が好きで、特にJ-POPなどのアップテンポなものを好む。

iPadには強い関心を示している。教師がiPadを取り出すと笑顔になる。特に音楽が流れるアプリを見るのが好きで、好きな曲が流れると大きく笑い声を上げながら聞く。iPadとポータブルスピーカーを接続して音楽を聞くことを繰り返していると、スピーカーを見ただけで今から音楽が聞けるということを理解し、笑顔を見せるようになった。また、「和金魚」など、画面に触れることで映像や音に変化するアプリも好み、自分から画面に触って楽しむ。「画面に触る」→「映像・音に変化する」という因果関係を理解していることが感じられる。

イ 活動の目的及び具体的内容

【目的】自分を認識し、他者と区別する。自分の体調を意識する。

【内容】始めの会の出欠確認と健康観察で利用した。出欠確認では、画面上に並んだ同じクラス3名の写真の中から、自分の写真を選ぶ。写真に触れると画面が切り替わって写真が大きくなる。同時に自分のテーマ曲が流れることで、自分の写真を正しく選んだことが分かる。健康観察では、「元気」「ふつう」「悪い」の中から、イラストや図形を参考に選ぶ。

イラストに触れると、画面が切り替わってイラスト

が大きくなる。スライドは「Keynote」で作成した。出欠確認で自分の写真を選んで画面が切り替わるところで、画面に変化を付け、「iMovie」で音楽入りの短い動画を作り、スライドに貼り付けた。

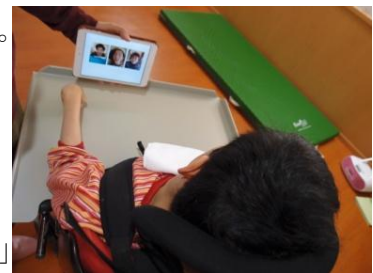


図5 使用場面

ウ 取組の成果

iPadに強く興味を示した。画面をよく見て、自分から手を伸ばして触れてみようという意欲が見られた。好きな音楽が流れることを喜び、活動に取り組む意欲を高めることにつながった。写真の並びを工夫することで、自分の写真を選ぶ確率が高くなった。



図6 ビデオの撮影場面



図7 確認及び指導場面

(7) その他の取組

ア ビデオ機能の活用（技能検定の練習での利用）

技能検定（清掃）の練習風景をiPadで撮影し、その後すぐに生徒と共に視聴し、指導助言・評価をした。練習中の動きについて、生徒たちは緊張して実際にどのように行ったか覚えてなかったり、指導する教師も見落としがあったりする。練習直後に画像を見て確認することで、生徒も教師も共に客観的に練習の様子を見られた。生徒は実際の自分の動きを確認することで自ら課題を見付け、教師は的確な指摘が行えた。その反省を基に次の練習が行えるので、効率的に練習を行うことができた。

イ 報告会での利用

校外の現場実習の様子を写真やビデオに撮り、報告会や事後指導に役立てた。

iPadでは撮影した写真は必ず撮影日時順に表示されるが、写真のアルバム機能を使うと、写真やビデオ映像の順番を自由に変えられる。そのため「Keynote」などのプレゼンテーションアプリで編集を行わなくても数枚の写真や動画を使い手軽に報告会を行うことができる。生徒たちも自分たちの発表に合わせてiPadを簡単に操作し、報告会で発表した。写真だけでなく、動画



図8 発表の場面

を入れることによって、見ている生徒も臨場感や緊張感を感じることができた。

ウ 動画再生アプリ（AV Player HD）の活用

このアプリはmp4やwmv、mtsなど、様々なファイル形式の動画を再生することができる。訪問教育の授業で、特に行事の事後学習などに利用している。便利なのは、ビデオカメラで撮影したAVCHDの動画をファイル変換することなく再生することができる点である。

行事の事後学習で、当日の様子をビデオで振り返る活動は訪問教育に限らず行われている。学校では教室にテレビがあるので、ビデオカメラをテレビに接続してクラスみんなで見るができる。しかし訪問教育では、授業場所が児童生徒の自宅や施設などまちまちなので、テレビがない環境で授業を行うことがある。以前はビデオカメラの液晶画面で見たり、動画をDVDに移してからポータブルDVDプレーヤーで見たりしていた。ビデオカメラの液晶画面は画面が小さすぎるし、ポータブルDVDプレーヤーで見るようにするのは手間が掛かるので、このアプリを使い、iPadの画面で動画を見るようになった。これなら画面も大きく、手間も余り掛からない。



図9 ビデオ画面

そういう意味で、訪問教育に適したアプリであると言える。

iPadのカメラで動画を撮影すれば、「写真」アプリから見ることで、より簡単に見られるが、行事のときにiPadを持って動きながら撮影するのはなかなか難しい。撮影に関してはやはり専門の道具であるビデオカメラの方が使いやすい。ビデオで撮り、iPadで再生するのが、ベッドサイドで授業をすることもある訪問教育には合っていると思われる。

3 教職員研修

小学部、中学部、高等部においてそれぞれ1回ずつiPadを活用した研究授業を行った。研究授業後の授業研究ではiPadの活用研修も行った。

小学部の研究授業では、授業実践の(2)「プレゼンテーションアプリを使用した単元導入時の活用」に記した内容で行った。

中学部の研究授業では、2・3年生の授業で修学旅行の行き先について事前に調べた内容を発表した。iPadだけでなく従来の紙に書いてまとめたものを活用した発表や、手作りの衣装や小物を活用した発表など、総合的に分かりやすく工夫されていた。写真については、紙に貼ったものを見るよりも、iPadの画像を50インチのテレビに出力して見る方が大きくて見やすかった。

「Drop Talk HD」や「ねえ、きいて」、「Keynote」などのアプリを活用して発話が難しい生徒も発表に参加した。発話の難しい生徒は、発表のときなどは指示棒係になることが多いが、これらのアプリを使うことによって、号令を出したり、前もって録音していたせりふを出力させるなど発話がある生徒と同様に発表することができる。これらのアプリを活用することによって、生徒が授業に主体的に参加できるようになると考えられる。

高等部の研究授業では、理科の授業で自由研究の発表をiPadを活用して行った。高等部産業科には夏休みに自由研究を課題として出している。用紙はA4で3枚程度にまとめるのだが、図や写真を交えてきれいにまとめる生徒もいる。普通に発表すると、発表を聞いている生徒に図や写真を十分に見せることができない。そこで「SharpScan」というアプリを使い、レポートをPDFファイルとしてiPadに取り込み、50インチのテレビに出力することにした。iPadでは指2本で簡単に拡大縮小ができる。これにより発表時に図や写真も見せやすくなり、発表の内容も分かりやすくなった。また、優秀な作品を見ることにより、どのように研究を進め、まとめると良いのかなども分かりやすく、今後の学習活動に生かしやすい。同様のことはOHC(オーバーヘッドカメラ)でもできるが、機器も大きく、授業のたびに教室に持ち運ぶのも大変である。また、一度iPadに取り込んでおくといつでも見ることができるので、他のクラスの授業でも紹介することができる。



図10 号令を出す場面



図11 発表の様子



図12 発表の様子

授業研修及びiPadの活用研修は3回行い、述べ54名の参加者があった。1回目は「Drop Talk」や「ねえ、きいて」などのコミュニケーションアプリについて行った。発話の難しい生徒には意思表示をする機会を増やすことができるアプリであるが、これらのコミュニケーションアプリは多くあり、活用の場面も多いので、このような研修を通して知識を増やすことが望ましいと考えられる。研修では、コミュニケーションアプリの紹介をしたり、実際に操作をして使い勝手を確かめたりした。



図13 研修の様子

2回目は「SharpScan」の研修を行った。このアプリを使うと、名刺サイズから画用紙サイズまで様々な大きさのものをPDFファイルに変え、保管することができる。それをテレビやプロジェクターで出力することができる。研修ではPDFファイルの作り方をを行った。多くの場面で活用できる可能性がある。



図14 研修の様子

3回目は「iMovie」の研修を行った。「iMovie」は写真やビデオをつなげてビデオを作ったり、映画の予告編のようなビデオをつくることができるアプリである。Windowsの「ムービーメーカー」と同様のアプリである。映像を授業の導入などに使ったりすることで集中力を高めたり、その後の授業に興味を持って取り組める。研修ではグループに分かれて実際に予告編を作成し、発表した。

4 成果と課題

近年iPhoneなどのスマートフォンやiPadなどの普及、様々なアプリの開発により、障害のある児童生徒の学習活動などの支援がしやすくなってきた。しかし、iPhoneやiPadは高額で、簡単には購入や使用ができにくい状況がある。それでも校内でiPhoneやiPadの所有者が徐々に増え、それらを活用したいと思う教師も多くなった。今回愛媛県インクルーシブ教育システム構築事業によって10台のiPadが貸し出され、活用研究を進める中で、その有用性を理解し、活用しようとする裾野を広げることができつつある。

今後の課題としては、コミュニケーションツールとして使用する場合は、常に持ち運ぶ必要があり、大きなiPadよりもiPhoneやiPod touchの方が利便性が良いなど、使用状況によってどんな機種を選択するかが重要である。また、コミュニケーションツールとして使用する場合は、常に一人の教師や生徒がそれを携帯し、いつでも必要なときに使用する必要がある。そのため、必要なときにのみ学校所有のiPadを貸し出すというやり方は利便性の向上は望めない。今後、多くの人がiPadを活用したいというときに、数が限られている学校所有のiPadをどのように活用していくかも課題の一つである。部が上がるにつれ、自分で管理することも可能になる。そのときは生徒個人のiPadやiPhoneを使用するということもあり得ると思われる。就学奨励費でiPadの購入に対しても補助が出るようになってきており、今後所有し、使用したいと考える生徒や保護者が現れる可能性も考えられる。そのときの対応も考えておく必要がある。授業の実践例の(エ)でも記載されているが、クラスで場面緘黙の生徒にコミュニケーションツールとしてiPadを使用したとき、最初は自分

も授業中にiPadに触りたい、「なぜその子だけ…。」というような感情を持つ生徒も多くいたようである。休み時間には他の生徒にもiPadに触れさせ、この生徒が意志を表すにはこの機器が必要なのだと言い続けることによって他の生徒も納得していき、授業中その生徒だけがiPadに触ることに慣れてきたということであった。高額な機器であるのですべての生徒が持てるものでもない。また、すべての生徒が等しく使うものでもない。その不公平感に対処するのも大きな課題の一つである。

iPadの魅力としては、WiFiなどの通信環境が整っていると、簡単にインターネットで調べ学習ができることである。iPadはパソコンよりも起動が早く、また、大型テレビにも簡単に接続でき大画面で情報を共有することができる。学習活動で疑問が生じたとき、発展学習をさせたいとき、実物の写真や動画などを見せたいときなどインターネットが簡単に使える環境があると望ましいが、現在の学校現場ではそのような環境は整っていない。環境整備も今後の課題である。

iPadでは写真やビデオが撮れ、その加工も行えるので、観察記録を行うのも、それをまとめて発表することもできる。またゲームから障害のある人の支援を行うような様々なアプリまで数多く存在する。環境さえ整えば、情報を得ることも発信することもできる。その活用方法は非常に多く、優れた機器である。その可能性を引き出すためには、様々なアプリに触れ、その有効性を確認することも必要である。これからも研究を続けていかななくてはならない。

5 教材一覧

アイコン	名 前	金額	コメント
	SharpScan	無料	スキャナーの様に書類などを読み取ってデータ化するアプリ。背景を自動で除去してくれる。有料版にはOCR機能がつく。
	Keynote	無 料 または 1000円	プレゼンテーションアプリ。PowerPointと互換性がある。
	Evernote	無料	テキストや写真などのデータをクラウド上に保存するアプリ。
	ねえ、きいて	200円	カードを押すと内容を発音してくれるアプリ。オリジナルのカードを作ることもできる。録音もできるので便利である。
	Drop Talk HD	3000円	iPad向けVOCAアプリ。キャンパス内の単語や単語を組み合わせた文を発音してくれる。
	はなまる	200円	ToDoアプリ。手順表を作成するのに便利なアプリ。写真やイラストを自由に挿入しながら手順表を作成していくことができる。
	かなトークPlus	350円	入力した文字を読み上げるアプリ。発音が機械音的で聞き取りにくい、長い文章でも打ち込めば読み上げてくれる。
	しゃべって 一手書き文章をあなたにかわってしゃべります	1200円	指で文字を書いて、「話す」ボタンを押すと書いた文字どおりにしゃべるアプリ。
	瞬間日記	無料	メモや写真を時刻と共に記録する。プライベート日記アプリ。
	5分歯みがき	200円	5分で正しい歯磨きができる。分かりやすいアニメーションと解説に沿って5分磨くと、磨き残しがない歯磨きを体で覚えることができる。
	AV Player HD	無料	mp4やwmv、mts、AVCHDなど、様々なファイル形式の動画を変換なしに再生することのできるアプリ
	キャンドルケーキ	無料	バースデーケーキのキャンドルの火を消す疑似体験ができる。息を吹きかけたりiPadを振ったりして火を消すと、音楽が流れる。
	VML+HIKARI	無料	入力した文章を読み上げるアプリ。3種類の感情で読み分けができる。男性版など、他にもいろいろな種類の声もある。

	ADOC-S Free	無料	個別の指導計画、教育支援計画の作成を助けるアプリ。本人や保護者の困っていること、目標の設定など、イラストを見ながら考えることができる。懇談等で利用すると良さそう。
	クリスマス音楽マスターコレクション	無料	80曲以上のクリスマスソング（洋楽）が収録されている。無料版は楽曲の一部を再生。クリスマス会のBGMなどに。
	じゃじゃじゃじゃん	無料	絵本、童謡アプリ。かわいいアニメーションで話を見たり歌を聞いたりする。アプリ内課金で話や曲を追加できる。
	よみあげ絵本	無料	たくさんの昔話が収録されている絵本アプリ。BGM等はなく、少し地味だが無料で話を追加できる。
	ワオっち！	無料	幼児向け知育アプリ。ことば、数、図形などを、ゲームを通して楽しく学習できる。
	タッチ！あそべビー	無料	上の「ワオっち！」より対象年齢が低い知育アプリ。よりシンプルな遊びが収録されている。
	声シャッター	100円	「はい、チーズ」などの声を掛けると、ハンズフリーでiPadのカメラのシャッターを切ることができる。
	Parallel Map	無料	google mapとストリートビューを一つの画面に同時に表示することができる。校外学習や修学旅行の事前学習に。
	カーディオグラフ (Cardiograph)	200円	iPadのカメラに指を載せるだけで、脈拍を測定してくれるアプリ。
	にほんご-ひらがな	無料	「読む・書く・聞く」三拍子そろえたひらがな学習アプリ。簡単なかるたゲームも入っています。リズムに合わせて単語を口ずさみながら楽しく、遊びながら学習できます。
	完璧な動画	無料	動画編集を視覚的に行うので、操作が分かりやすい。トリミングや文字や音楽の挿入、複数の動画を合わせて一つの動画に編集する機能を持っている。